

記入例

児童手当 認定請求書

提出年月日	令和 6・0・0	※受付確認年月日	令和 . .
-------	----------	----------	--------

請求者	①氏名 (法人名等)	城陽 太郎	②性別	男・女	③生年月日	昭和 58年 1月 1日 平成	④職業	ア. 被用者 イ. 公務員 ウ. 被用者等でない者	⑤配偶者	有・無
-----	---------------	-------	-----	-----	-------	--------------------	-----	---------------------------------	------	-----

請求者	⑥住所 (法人の主たる事務所の所在地)	城陽市 寺田東/口16番地、17番地	⑧請求者の加入している公的年金制度の種類				⑨所得の状況
	1月1日時点の住所 (1~5月分は前年、6~12月分は本年)	城陽市内 城陽市	加入されている年金の種類に○を記入してください。 国家公務員共済と地方公務員共済の方は、健康保険証の写し又は年金加入証明が必要です。	※以下の共済組合の組合員である場合は括弧内に○を記入してください。 () 私立学校教職員共済 () 国家公務員共済 () 地方公務員共済			

配偶者等	⑦個人番号	1 1	TEL①	0774-56-4036	TEL②	090-○×○×-△□△□
	⑩氏名	城陽 花子	⑫生年月日	昭和 58年 4月 10日 平成	⑬職業	ア. 被用者 イ. 公務員(勤務先: ウ. 被用者等でない者

配偶者等	⑪住所 (⑩と異なる場合)	(請求者と異なる場合に記入してください)	⑭個人番号	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	TEL①	-
------	------------------	----------------------	-------	---------------------------------	------	---

児童	氏名	城陽 三郎	続柄 (長男・長女等)	二男	生年月日	平成 19年 6月 15日 令和	同居・別居 の別	同・別	監護の有無	有・無	生計関係	同一・維持
	氏名	城陽 梅子	続柄	長女	生年月日	平成 26年 6月 20日 令和	同居・別居 の別	同・別	監護の有無	有・無	生計関係	同一・維持

児童の兄弟等	氏名	城陽 次郎	続柄	長男	生年月日	平成 17年 5月 5日	同居・別居 の別	同・別	監護相当の有無	有・無	生計費負担の有無	有・無
--------	----	-------	----	----	------	--------------	-------------	-----	---------	-----	----------	-----

支払希望金融機関	公金受取口座を希望します。	<input type="checkbox"/>	金融機関名	銀行 信用金庫 農協	預金種別	普通	支店コード	1 2 3	支店名	△ △ 本店 支店 出張所	口座番号	1 2 3 4
----------	---------------	--------------------------	-------	------------	------	----	-------	-------	-----	---------------	------	---------

マイナポータルに登録された公金受取口座を振込先として登録できます。
※利用される場合は、口座情報の記入は不要です。

⑩欄で監護相当(有)、生計費負担の(有)の場合は、「**監護相当・生計費の負担についての確認書**」の提出が必要です。
(⑩児童の兄弟等と⑪児童の合計人数が3人以上の場合。)

⑪同居別居: 請求者と児童が同居している場合... 同
" 別居している場合... 別
※別居の場合は、「**別居監護申立書**」も提出してください。
(別居監護申立書はホームページからダウンロードしてください。)

⑫監護有無: 請求者自身が児童を
養育(監督・保護)している場合... 有
養育(監督・保護)していない場合... 無
※特別な事情がない限り、「有」に○をつけてください。

⑬生計関係: 児童が請求者自身の子で、
生計を同じくしている場合... 同一
児童は請求者自身の子ではなく、
生計を維持している場合... 維持

[注意]
⑫「監護相当の有無」及び「生計費負担の有無」がいずれも「有」の場合は、本請求書と併せて「**監護相当・生計費の負担についての確認書**」をご提出ください。
(⑩児童の兄弟等と⑪児童の合計人数が3人以上の場合に限る。)

・裏面の注意をよく読んでから記入してください。 ※印の欄は、記入しないでください。字は、楷書(かいしょ)ではっきり書いてください。
・児童手当の支給要件の該当性を審査するため城陽市が必要な税情報等の確認を行うことに同意します。

注意

- 1 ①の欄は、請求者が個人である場合は氏名を、法人である場合は法人名及び代表者氏名を記入してください。
- 2 ⑥の欄は、請求者が個人である場合は住民票上の住所を、法人である場合は主たる事務所の所在地を記入してください。
また、請求者が個人であり、本年（1月から5月までの月分については、前年をいいます。）1月1日に他の市町村（特別区を含みます。以下同様です。）に住所を有していた場合は、当該住所を右欄に記入してください。
- 3 ⑦の欄は、請求者が個人である場合のみ12桁の個人番号を記入してください。
- 4 ⑧の欄は、⑩の欄に3歳に満たない児童がいる請求者に限り、請求の日における公的年金制度の加入の状況について、次により記入してください。
ア 加入している公的年金制度について、「ア」から「ウ」までのいずれか該当するものを○で囲んでください。「ウ」を○で囲んだ場合は、（ ）内にその年金の名称を記入してください。
イ 「ア」を○で囲んだ場合で、第四種被保険者又は高齢任意加入被保険者（これらの者が保険料を自ら全額負担している場合に限り。）であるときは、当該欄の余白に「四種」又は「高任」と記入してください。
- 5 ⑨の欄は、請求者及び配偶者の前年（1月から5月までの月分については、前々年をいいます。）の所得についての市町村民税又は特別区民税の総所得金額、退職所得金額、山林所得金額、土地等に係る事業所得等の金額、長期譲渡所得金額及び短期譲渡所得金額（譲渡所得に係る特別控除を受けた場合は、その額を控除した額）並びに先物取引に係る雑所得等の金額、特例適用利子等の額、特例適用配当等の額、条約適用利子等の額並びに条約適用配当等の額の合計額を記入して下さい。
- 6 ②、③、④、⑤、⑧及び⑨の欄は、請求者が法人である場合は記入する必要はありません。
- 7 ⑨、⑩、⑪、⑫、⑬、⑭及び⑮の欄は、2人以上で児童を養育（監護し、かつ、生計を同じくするか又は生計を維持することをいいます。以下同様です。）している場合に記入してください。「配偶者等」とは、児童を養育をする配偶者、未成年後見人等をいいます。なお、配偶者には、児童を懐胎した当時婚姻の届出をしていないが、請求者と事実上婚姻関係と同様の事情にあつた者を含みます。
⑩の欄は、配偶者等が他の市町村に住所を有する場合に住民票上の住所を記入してください。また、配偶者等が本年（1月から5月までの月分については、前年をいいます。）1月1日に⑩の欄と異なる市町村に住所を有していた場合は、当該住所を下欄に記入してください。
- 8 ⑯の欄は、⑰の欄に記載する児童の兄姉等のうち、18歳に達する日以後の最初の3月31日を経過した後22歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある全ての子について、記入してください。
- 9 ⑱の「監護相当の有無」の欄は、監護に相当する日常生活上の世話及び必要な保護をしている場合には、有を○で囲んでください。
- 10 ⑲の「生計費の負担の有無」の欄は、⑱の欄に記載した子が受給者の収入により子の日常生活の全部又は一部を営んでおり、かつ、これを欠くと通常的生活水準を維持することができない場合には、有を○で囲んでください。例えば同居であつて子の学費や家賃・食費等の生計費の一部を親が負っている場合、別居であつて親が学費や生計費の一部を仕送りしている場合等が該当します。
- 11 18歳に達する日以後の最初の3月31日を経過した後22歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある子が海外に留学している場合は、⑳の「海外留学をしている場合の出国年月」の欄に、いつから留学しているか（出国した年月）を記入してください。
- 12 ㉑の欄は、請求者が養育をする18歳に達する日以後の最初の3月31日までの間にある全ての子について、記入してください。
- 13 児童が海外に留学している場合は、㉒の「海外留学をしている場合の出国年月」の欄に、いつから留学しているか（出国した年月）を記入してください。
- 14 ㉓の「生計関係」の欄は、次によって記入してください。
ア 「同一」は、児童が請求者自身の子である場合や請求者が未成年後見人又は父母指定者である場合で、請求者がその子と生計を同じくしているときに○で囲んでください。
イ 「維持」は、児童が請求者自身の子でない場合で、請求者がその子の生計を維持しているときに○で囲んでください。
- 15 この請求書には、次の書類を添えて提出してください。なお、当該書類により証明すべき事実を公簿等（マイナンバー制度による情報連携を含みます。）によって市町村長（特別区の区長を含みます。）が確認することができるときは、当該書類は省略することができます。
ア 児童又は児童の兄姉等が他の市町村に住所を有する場合は、その児童又は児童の兄姉等の住民票の写し又は住民票記載事項証明書であつて、その児童又は児童の兄姉等が世帯主である場合にはその旨、その児童又は児童の兄姉等が世帯主でない場合には世帯主との続柄が記載されたもの
イ 児童が海外に留学している場合は、当該児童が日本国内に住所を有しなくなった日の前日まで引き続き3年を超えて日本国内に住所を有し、教育を受けることを目的として外国に居住していることを明らかにすることができる書類
ウ 児童が請求者自身の子であり、請求者がその児童と別居している場合は、請求者のその児童に対する養育の状況を明らかにすることができる書類
エ 請求者が未成年後見人である場合は、当該事実を明らかにすることができる書類
オ 請求者が父母指定者である場合は、当該事実を明らかにすることができる書類
カ 児童が請求者自身の子でない場合は、父母とその児童との養育関係及び請求者とその児童との養育関係を明らかにすることができる書類（請求者が未成年後見人又は父母指定者である場合を除く。）
キ 生計を同じくしない配偶者等と別居し、児童と同居している場合は、当該事実を明らかにすることができる書類
ク 請求者に配偶者がある場合には、本年（1月から5月までの月分については、前年をいいます。）1月1日に他の市町村に住所を有していた場合は、請求者又は配偶者の前年（1月から5月までの月分については、前々年をいいます。）の所得の額についての市町村長の証明書
ケ ㉑の欄に3歳に満たない児童がいる請求者が被用者であるときは、当該事実を明らかにすることができる書類
コ ⑱の欄の「監護相当の有無」及び「生計費負担の有無」がいずれも「有」の場合は、㉑の欄に記載した子に係る監護相当・生計費の負担についての確認書
ク ㉑の欄の「監護相当の有無」及び「生計費負担の有無」がいずれも「有」の場合に、㉑の欄に記載した子が海外に留学している場合は、当該子が日本国内に住所を有しなくなった日の前日まで引き続き3年を超えて日本国内に住所を有し、教育を受けることを目的として外国に居住していることを明らかにすることができる書類